



まだ見ぬ、食の力を。

ニッスイグループは、未来を支える子どもたちの
発見や体験を応援しています



持続可能な水産資源から世界の人々に健康をお届けすることは、
海と海の生き物たちに支えられて事業を営むニッスイの果たすべき役割のひとつです。
水産物をはじめとする世界中の資源からの発見や気づきは、多様な価値として、
AI や IoT 技術を活用した次世代の養殖技術を生み出しました。
豊かな海と、その資源を未来の子どもたちに伝えるため
海洋プラスチックやフードロスなどの社会課題の解決にも取り組んでいます。
海が、いつまでも子どもたちの体と心を育む存在であってほしい —
それが、ニッスイの変わらぬ思いです。

日本水産株式会社



第41回「海とさかな」自由研究・作品コンクール 応募ガイド

発行日 令和4年5月発行

監修 「海とさかな」自由研究・作品コンクール事務局

協賛 日本水産株式会社

発行所 朝日学生新聞社 〒104-8433東京都中央区築地5-3-2



FSC® 認証紙と植物油インクを採用しています。



非売品・無断転載を禁じます。



第41回

海とさかな

自由研究・作品コンクール

体験を通じて学ぶSDGsも学べる



「海とさかな」自由研究・作品コンクール

主催／朝日新聞社、朝日学生新聞社

後援／農林水産省、文部科学省、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、

公益財団法人海外子女教育振興財団、公益社団法人日本水産学会

協力／公益社団法人日本動物園水族館協会

協賛／日本水産株式会社

<https://www.umitosakana.com>

目次

- 1P 賞の紹介
- 2-3P 応募のきまり
- 4P 応募の流れ
- 5-6P 【研究部門】観察図 作品紹介
- 7-8P 【研究部門】自由研究 作品紹介
- 9P 【創作部門】絵画 作品紹介
- 10P 【創作部門】作文 作品紹介
- 11P 【創作部門】工作 作品紹介／絵本 作品紹介
- 12P 「海とさかな」自由研究・作品コンクールでSDGsを学ぼう!
- 13-14P 海と魚を守るニッスイグループの取り組み

賞の紹介

◆最優秀賞(研究部門・創作部門)

農林水産大臣賞／文部科学大臣賞／海洋研究開発機構理事長賞／
水産研究・教育機構理事長賞／日本水産学会会長賞／朝日新聞社賞／
朝日学生新聞社賞／日本水産株式会社賞

計16点

- 上記の各最優秀賞受賞作品に対して賞状・盾・副賞として図書カード(5万円分)を贈呈します。
 - 上記入賞者と2名の保護者を表彰式および「有名テーマパーク(千葉県浦安市)」へ、招待します。
- ※社会情勢によって表彰式がオンライン開催となった場合、目録を贈呈します。
※海外に在住している児童は、表彰式等にご招待することができません。あらかじめご了承ください。

◆学校・団体協力賞

学校・団体応募にて登録いただいた中から、50校(団体)程度に図書カード2万円分を贈呈いたします。

◆優秀賞

「研究部門」「創作部門」各賞の他、最終審査会まで残った作品の中から、惜しくも最優秀賞に選ばなかった作品には優秀賞として、賞状と図書カード(5万円分)を贈呈します。

応募者全員に名前を入れた

「海とさかな博士号認定証」と参加賞を贈呈



海とさかな
博士号認定証

応募のきまり

テーマ 『海とさかなとわたしたち』

わたしたちが毎日食べている魚。たくさんのいのちを育てている海。海も魚も、わたしたちのくらしと深くつながっています。なぜ? どうして? と、海や魚のふしぎやその美しさに目をむけて、自由研究、観察図、作文、工作、絵画で「表現」してみましょう。

応募資格

小学生

審査員

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|----------------------------|
| 坂本 和弘 | 前葛西臨海水族園副園長(審査委員長) | 飛田 浩昭 | 西武学園文理小学校 校長 |
| 猿渡 敏郎 | 東京大学 大気海洋研究所 資源生態分野 助教 | 森田 和良 | 文京学院大学 人間学部 児童発達学科 特任教授 |
| 長谷川裕康 | 農林水産省 水産庁 増殖推進部 研究指導課長 | 高山 裕喜 | 朝日新聞社 科学みらい部長 |
| 有本 淳 | 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 | 清田 哲 | 朝日学生新聞社 編集部長 |
| 佐藤 孝子 | 海洋研究開発機構 地球情報基盤センター 技術副主幹 | 吉田 桂子 | 日本水産株式会社 コーポレートコミュニケーション部長 |
| 桑原 隆治 | 水産研究・教育機構 経営企画部 次長 | 五十嵐美樹 | 科学のお姉さん ジャパンGEMSセンター特任研究員 |
| 神保 充 | 日本水産学会・北里大学海洋生命科学部 教授 | | |

個人応募／学校・団体応募

以下の2部門5分野から選んでください。下記の規定にそって作品をまとめてください。

研究部門		創作部門	
観察図分野	A3判(29.7cm×42cm)か、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙を使用。下記の4項目を記入する。 ①テーマ ②動機(なぜ、この題材をえらんだか) ③観察図を描いて分かったこと ④感想など	絵画分野	A3判(29.7cm×42cm)、または、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙1枚(八つ切りなど小さい分には応募可能)。 ※「絵画」は写真や図鑑、インターネットの画像をそのまま描くのではなく、実際に見た光景や想像した世界を描くこと。
自由研究分野	スケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)に、文章、絵、写真などを見やすくまとめる。 ※サイズは、スケッチブック等の場合、B4判サイズ以内で、枚数は12枚(24ページ)以内。 ※資料を添付する場合は、三辺の合計が100cm以内、重さ3キロ以内。 ※資料などで、貴重なものや壊れやすいもの場合は送付せず、写真などで代用する。	作文分野	(創作文も含みます) 400字づつ原稿用紙5枚以内。薄い文字が無いように、丁寧に書く。
		工作分野	(絵本も含みます) 工作作品:タテ+ヨコ+高さの三辺の合計が100cm以内。重さが3キロ以内。 絵本作品:B4判(25.7cm×36.4cm)サイズ以内のスケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)を使用し、10枚(20ページ)以内にまとめる。

※個人応募は各家庭からの応募です。学校や団体からの応募は1名であっても学校・団体応募となります

応募について

■応募申請登録期間／2022年6月1日(水)～9月30日(金)

※「海とさかな」自由研究・作品コンクールのHP (<https://www.umitosakana.com/>) から登録し、応募番号が記載された「応募カード」を取得してください。
※応募者名は「海とさかな博士号認定証」に印刷しますので、お間違えのないように入力してください。

■作品応募受付期間／2022年6月1日(水)～9月30日(金) ※当日消印有効

■作品送付先／「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富236-1 作品発送時の送料は出品者のご負担となります。

作品の送付や応募方法など、問い合わせはすべて
guide@umitosakana.comまでお願いします。

注意事項

■<作品の返却>について

入賞作品をのぞき作品は返却しません。写真やコピーで保存することをお勧めします。作品を手元に置いておきたい場合はオンライン応募(個人応募)をお選びください。

■著作権(版権など)、肖像権

入賞作品の著作権(版権など)は主催者・協賛者に帰属します。応募ガイド、日本水産株式会社広報誌などに2次利用する場合がございます。

■<作品名>について

作品には必ず題名(20字以内/文字数厳守)をつけてください。応募申請登録時に作品名が不明(または未定)の場合、作品名を「海とさかな」と記入してください。

■<応募カード>について

作品には必ず応募登録番号が記載された「応募カード」をつけて提出してください。「応募カード」は、各作品の分かりやすい部分にしっかり貼り付けてください。応募登録番号は応募申請登録をすると発行されます。オンライン応募の場合は応募カードの添付は不要です。

■<肖像権>について

出張授業やワークショップ、表彰式の様子を、朝日小学生新聞やコンクールホームページ、日本水産株式会社の広報誌、カレンダー、ウェブサイトなどに掲載する場合がございます。

■<個人情報>について

○作品の送付に際して、個人情報がわかるような資料などを作品と一緒に送らないでください。

○入賞作品は公開されます。公開されては困るような内容を作品に掲載しないでください。

■<作品の素材>について

壊れやすい素材や液体あるいは液体状の素材を作品に使わないでください。

■<他の作品コンクールへの出品>について

重複応募を禁じます。重複応募の場合は、入賞を取り消します。

■<出典、引用>について

図鑑や書籍、新聞、ウェブサイトから引用・参考にした場合は、必ず出典を明記してください。

■<漁業権>について

場所によって漁業権が設定されている場合があります。漁業権を侵害しないよう生き物の観察・採取を行ってください。

■<作品の評価など>について

○参考資料として作品に添付した書籍などのコピーは評価の対象となりません。

○天然記念物など捕獲が禁止されていたり、法律に触れる行為で入手した魚介類をあつかった自由研究・観察図などは選考対象外とします。

入賞発表

2022年11月中旬～下旬に、朝日新聞、朝日小学生新聞紙上、および、「海とさかな」自由研究・作品コンクールホームページに掲載(予定)

表彰式

2022年12月10日(土)

ロイヤルパークホテル(東京都中央区)にて開催予定。

最優秀賞に入賞したみなさまと2名の保護者をご招待いたします。
※社会状況によりオンラインでの開催となる場合がございます。

応募の流れ

はじめに
登録をしよう!

6月1日(水)から

応募申請登録開始!

①まずは検索!

海とさかな

②応募申請登録



個人応募
限定

オンライン応募ができるよ

個人の応募に限り、郵送での応募またはオンラインでの応募を受付いたします。

作品を手元においておきたい場合は、個人応募限定のオンライン応募をお選びください。
詳しい応募方法はウェブサイトの「**応募の流れ**」をご覧ください。

※学校や団体からは1名であっても団体応募となるためオンライン応募にはご応募いただけません

応募ガイドブック
募集ポスター
専用画用紙を

無料プレゼント!

こちらからお申し込みください。➔

※数に限りがあるため、配布が終了となる場合がございます。



6月1日(水)から

作品受付開始!

郵送でも
宅配便でも
OK!

「応募カード」を作品に貼り付けて、作品が壊れないように気をつけて応募してね。

●作品送付先 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富 236-1

「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

9月30日(金)

当日消印有効

作品応募締切

締切日に
遅れない
ようにね!

／余裕を持って応募しよう。＼

か こ にゅう しょう さく ひん ほん ホームページ
**過去の入賞作品を本コンクールHPで
 ご覧いただけます。**



けん きゆう ぶ もん
研究部門

第38回 かんさつ ぶん や 観察図分野 **朝日新聞社賞**

「ナマズのお食事」

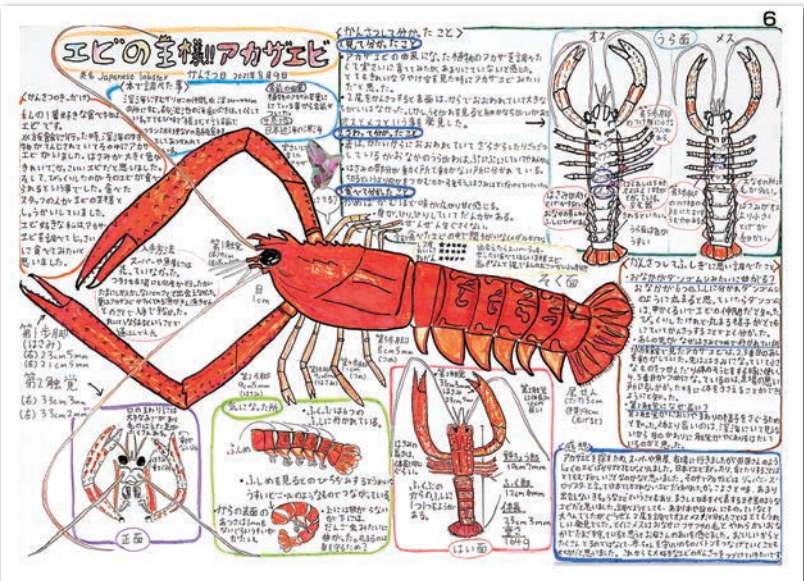


ここがポイント!

ナマズのエサであるカワヨシノボリについて、キラキラ光るウロコの様子をカラフルに表現しているよ。おなかのスケッチもていねいに描いているね。

第40回 かんさつ ぶん や 観察図分野 **海洋研究開発機構理事長賞**

「エビの王様!!アカザエビ」



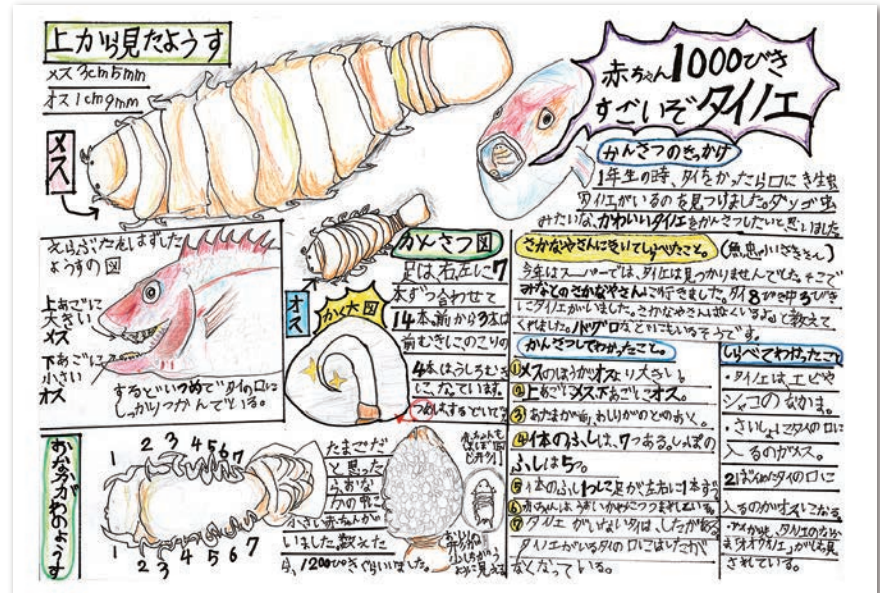
ここがポイント!

観察図だけど、実際にさわったり食べてみたりして分かったことも記入しているよ。細かい部分も観察して描いている点も評価されたよ。

けん きゆう ぶ もん
研究部門

第40回 かんさつ ぶん や 観察図分野 **日本水産学会会長賞**

「赤ちゃん1000びきすごいぞ タイノエ」

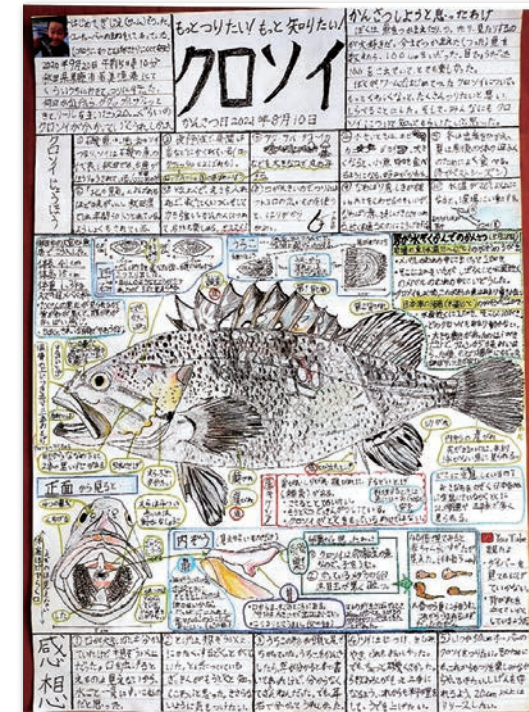


ここがポイント!

1000匹を超える赤ちゃんを数え、スケッチをするなど根気と丁寧な観察が光っている。「かわいいタイノエ」の言葉通り、生き物への愛情を感じるよ。

第40回 かんさつ ぶん や 観察図分野 **農林水産大臣賞**

「もっとつりたい!もっと知りたい!クロソイ」

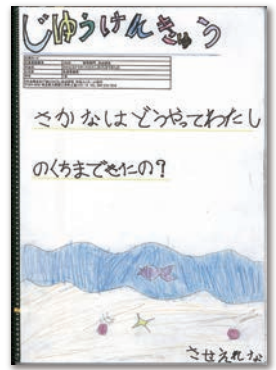


ここがポイント!

情報量の多さに圧倒される作品。耳石の取り出しや水族館での観察もまとめていて、絵の正確さ・実際の体験・情報と大事な点をすべて押さえているね。

第37回 自由研究分野 農林水産大臣賞

「さかなはどうやってわたしのくちまできたの?」



しおやき (せいさんまあい)

三ヶ所のいさかなをしおやきにして食べくらべてみました。

- ①ころこをとる。
- ②ないぞうをとってなりをあらう。
- ③しおをたっすりつける。
- ④さかなをききてやく。

しげい せいまね
うきふくろ
えんこ

しげい せいまね
うきふくろ
えんこ

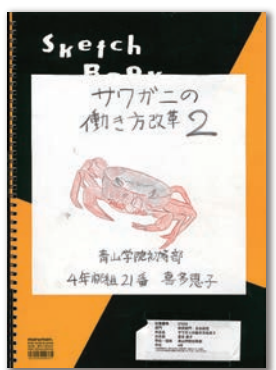
えんこのやくめ
みかといいたんきをエラをつからせて
うきふくろをしまからだのなかにいれる。

うきふくろのやくめ
くちまのはしはうきふくろをくちまから
からだをうかせたりしまかせて
からだをすませたする。

ここがポイント! 魚料理が好き、という動機から海でとれた魚がどのように手元まで届くのかを様々な場所に出かけて調べているよ。行動力が評価されたよ。

第40回 自由研究分野 日本水産株式会社賞

「サワガニの働き方改革2」



①仮説を立てて検証し、それをもとに次の仮説を立ててまた検証する。きちんとプロセスを経て研究に取り組む姿勢が素晴らしいね。

②仮説を立てて検証し、それをもとに次の仮説を立ててまた検証する。きちんとプロセスを経て研究に取り組む姿勢が素晴らしいね。

ここがポイント! 仮説を立てて検証し、それをもとに次の仮説を立ててまた検証する。きちんとプロセスを経て研究に取り組む姿勢が素晴らしいね。

第38回 自由研究分野 日本水産株式会社賞

「メダカのふしぎ?! みつけた」



メダカのふしぎ?!
みつけた

オス
メス

オスとメスのつらつらにのちがいは
オス 目、えら、おびれ、しりぞり、うきぶくろ、せいまね、うきふくろ、えんこ
メス 目、えら、おびれ、しりぞり、うきぶくろ、せいまね、うきふくろ、えんこ

日付	水温	観察内容	観察内容	観察内容	観察内容
7月20日	31度	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。
8月7日	32度	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。
9月4日	34度	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。	メダカの卵を孵化させた。

ここがポイント! 飼っているメダカのおなかに卵を見つけ、観察するうちに疑問に思ったことをまとめているよ。よく観察して調べるとい基本をしっかりと押さえているね。

第40回 自由研究分野 文部科学大臣賞

「ぼくとうなぎの3年間 多尾飼育を考える」



ぼくとうなぎの3年間
多尾飼育を考える

3日目... 4日目... 5日目... 6日目... 7日目...

多尾飼育を考えた理由... 多尾飼育のメリット... 多尾飼育のデメリット...

ここがポイント! 長期にわたって観察を続けたことで気づいたこと、問題への取り組みをていねいにまとめているよ。ウナギへの深い愛情を感じたよ!

第40回 絵画分野 水産研究・教育機構理事長賞

「にんじゃ左又マガレイ」



ここがポイント!

魚が砂に溶け込んでいる様子がうまく表現されているね。人の足を入れたことで魚の大きさが分かり、砂に隠れる様子が際立っているよ。

第40回 絵画分野 朝日学生新聞社賞

「見つけたぞ！アカテガニだ!!」



ここがポイント!

手前に配置することでアカテガニのディテールがよく分かるようにしている。また奥に人を配置したことで、見つけた際の驚き・喜びが伝わってくるね。

第40回 作文分野 文部科学大臣賞

「祖父の宝もの 一地島の海一」

二〇一十七年に「神宿る島」として世界遺産に認定された福岡県宗像市の沖ノ島を知っていますか。そのすぐ近くに地島という小さな島があります。島内には約六千本のヤブツバキが生し、島内のツバキ園では十二月から三月にかけて、美しい花が咲いています。人口は約百七十人。ぼくの小学校の全児童数よりも少ないです。みんなが親しく、大家族のように、助け合い、仲良く生活しています。漁師——これがぼくの祖父の仕事でした。ぼくの祖父は地島の海で遊船の仕事をしていました。遊船とは、釣りをしてお客を船に乗せて沖へ行き、そこで釣りを楽しんでもらう仕事です。祖父は、ぼくがまだ夢の中の夜が明ける前に家を出ていました。そして午後三時頃から四時頃に帰ってきて港に船を着けると、まず船をきれいに掃除して、ました。次の日、お客さんに気持ちよく乗ってもらうためです。祖父は、寝る前に必ず日記をつけていました。日記には、釣りに来たお客さんのことや、釣れた魚やよく釣れたポイントを記録していました。少しもお客さんに、魚釣りを楽しんでもらうための大事な記録だと聞きました。祖父は、お客さんが大きい魚を釣り上げた日は、何回もその話をしています。手を広げて、「こんぐらい。こんぐらい。」と、どんな手を広げていたか。まるで自分が釣り上げたかのように。祖父の目がキラキラしていて、ぼくはそんな祖父の笑顔が大好きでした。夏になるとあま漁が始まります。あま漁がある日は、まず六時くらいに外へ出て、漁師の人たちと行けるかどうか話し合っています。七時前くらいにもどってきて、ごはんを食、時間になるとウェットスーツに着替えて、それから伝馬船に乗って出発して、約一分間度にもぐる時間は約一分間です。手にはかざんちよを持ち、一度にだいた、二三個とついでに釣りました。深いところで七メートルから十メートルもぐり、少し休憩を入れながら約四時間もぐっていました。お昼頃にもどつてくると、とれたウニ、サザエ、アワビはそのまま売ることが多いけれど、ウニだけはからを割り、実をほぐり出してアルコールにつけてビンにつめていました。そこまですが祖父の仕事でした。実をほぐり出すのが大変で、三、四時間かかります。ぼくも手伝ったことがあるけれど、手が真っ黒になりました。祖父は朝早くから海にもぐって、とても疲れているのに「生けん命にから割りをしていたので、ぼくは心の中であつた時はいつも「おつかれさま。」と言っていました。祖父はよく島の人と浜でお酒を飲んでいました。島のおいちゃんたちと、いつも笑っていました。五年生の社会科の学習で祖父に話を聞いたことがありますが、その時に祖父が言った「漁師は命がけの仕事だから、仲間が大切だ。いつも島の人と助け合う仲間じゃなければいけない。お互い情報交かんして、地島全体の漁が増えないといけない。」という言葉が、とても心に残っています。また祖父は、魚をとりすぎてもいけないと言いました。ぼくたちが大きくなっても、地島の海で漁ができることを願っていた祖父でした。その祖父も、二年前「心疾患」で、突然旅立ち、現在は空の上から、地島を見守っています。祖父にとつて、地島の海は、かけがえのない宝ものだと感じています。ぼくも祖父が大切にしていた地島の海を、いつまでも大切に守っていくことを、大空に向けて祖父に届くように約束しました。「じちゃん、安心して。地島の海が、益々豊かな海になるように守っていくからね。」

第40回 作文分野 朝日新聞社賞

「ぼうぜのうみとさかな」

わたしは、ぼうぜというしまにすんでいます。だから、まいにちうみをみています。いえからみえるうみは、おてんきいいひにはキラキラしててとってもキレイ。すこいけのうみは、こわくみえる。あめのひのうみは、なんだかなしそうだけど、あめがやんだら、にじがみえるときがあるから、やっぱりキレイ。なつ、およきにいつてもちかくておさかながおよいでるのがみえるし、おさかなつり、つりもたのしいよ。だから、わたしはうみがだいすきです。ぼうぜのうみは、いろんなおさかながたくさんとれます。タイやヒラメ、タコやカニ、なまはあんまりわかんないけど、いつもいろんなおさかなをもらっています。すこいキレイにひかっているおさかなとか、とげみたくてあつてくろくてこわそうなおさかな。へびみたくにほそながいおさかな、おおいおさかな、小さいおさかな。かわいいおさかな、ぶさいくなおさかな、おなかのおさかながいてみるのもおもしろいよ。まえ、エイでいうさかなをみて、おおいおさかなをもらって、びっくりかえしてみせてもらったけど、びっくりかおしてたらわらった。わたしは、おにくががてですが、おさかなはさしみも、やいたのもたいたのも、ゼーンぶおいしくて、だいすき。とくにさしみはサイコー！ これからも、ずーっとキレイなうみのままで、おいしいおさかながたくさんといえよ。ぼうぜのうみはサイコー！

作文の書き方いろいろ

作文 家族旅行や釣り、親戚のお家の近くの海での経験など、思い出や体験をまとめる

創作文 「もしも魚になったら」など、想像の世界を自由に書く

第40回 工作分野 農林水産大臣賞

「『海とさかな』(底引網について)」



ここがポイント!

漁船の装備や色を実物をよく観察して、きちんと表現しているよ。底引き網についても、船と海底の高さを変えることで、分かりやすくしているね。

第40回 絵本分野 海洋研究開発機構理事長賞

「ぷかぷかの旅」



ここがポイント!

主人公のクラゲや海の中の様子を表現するために、いろいろな素材を使っているよ。クラゲ目線で環境問題や海的美しさもきちんと書いているよ。

第40回 工作分野 日本水産学会会長賞

「なるほど!びっくり!海とさかなのものしりカルタ」



ここがポイント!

1枚1枚の絵札の細かい描きこみ、読み札についても名前の由来や生態など幅広く記載しているね。楽しみながら学んでもらおう、という意気込みを感じるよ。

第40回 絵本分野 日本水産株式会社賞

「ハッピー ハッピー フィッシュデー」



ここがポイント!

「市場について知ってもらいたい」と仕掛けを施して、楽しく読めるようになっている。ストーリーも練られていて、読み手を引き込む構成になっているよ。

「海とさかな」自由研究・作品コンクールでSDGsを学ぼう!

SDGsって、なに?

SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」のことで、すべての国連加盟国が2030年までの達成を目指す、貧困や教育、環境など17分野にわたる目標です。2015年9月の国連総会で決まった「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」という目標に書かれており、「誰も置き去りにしない」という大きな約束をかけています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



コンクールを通じてSDGsも学べるよ!

コンクールのテーマ「海とさかなとわたしたち」は、SDGsとも大きなつながりがあるよ。例えば第38回の作品だと、創作部門で日本水産学会会長賞を受賞した「海のレジ-」(絵本)は「ゴミ袋を正しく使い捨てる責任」を訴えていることから「つくる責任つかう責任」(12番)と関係しているね。研究部門で海洋研究開発機構理事長賞を受賞した「うみとごみのけんきゅう」(自由研究)はまさに「海の豊かさを守ろう」(14番)と同じだね。他にも、海からの再生可能エネルギーを調べれば「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」(7番)につながるし、海や川に近い街を調べるだけでも「住み続けられるまちづくりを」(11番)のヒントになるよ。作品のテーマや内容を考えるときに「SDGs」も意識してコンクールに応募してみませんか?

日本水産学会会長賞 【創作部門】 絵本 「海のレジ-」



海洋研究開発機構理事長賞 【研究部門】 自由研究 「うみとごみのけんきゅう」



「キャリア・パスポート」にも役立つコンクールだよ!!

文部科学省では2020年4月から全国の小中高等学校で「キャリア・パスポート」を始めることにしました。キャリア・パスポートとは、学習や学校生活の目標を自分で決め、達成度を自分で確認する取り組みのことです。このコンクールには自由研究や作文などの作品づくりを通じて、調べ物をしたり課題を見つけて解決策を考えたりするなど、キャリア・パスポートにもピッタリのコンクールです。作品完成後に応募もできるからさらに一石二鳥だね。みんなでSDGsだけでなく、キャリア・パスポートにも挑戦してみよう!



豊かな海を守り 未来へ引きつぐ



「海とさかな」自由研究・作品コンクールの協賛を第1回開催から続けているニッスイ（日本水産）グループは、地球や海の恵みを持続可能なカタチで活用している会社です。たくさんの生き物がすみ続けられる海を守り、今の小学生が大人になったときにも今と変わらない豊かさを保つことが必要だと考えています。

このページでは、海と魚を守るニッスイグループの取り組みの一部を紹介します。

- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 12 つくる責任 つかう責任
- 14 海の豊かさを保つ
- 15 陸の豊かさも守ろう

森や里山を守ることで海も守る

湧水は森で生まれ、川を通じて栄養をたくわえ、海に流れ込みます。森や川が豊かでないと、海も豊かにならず、魚たちも育ちません。「森・川・海」のつながりの大切さを学び、実践する場として、大山隠岐国立公園内の船上山のふもとにある森林を「おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森」と名付け保全活動を行っています。



ニッスイグループの従業員、鳥取県・琴浦町関係者、小学生らが草刈りを行う様子



ひとりひとりの取り組み



荒川環境学習の様子

ニッスイグループでは2010年より2回／年、全国で事業所周辺の清掃活動「クリーンアップ作戦」を行っています。ポイ捨てごみが川に流れやがて海へ行きつく可能性があること、単なるごみ拾いではなく、ごみの海洋への流出防止を目的としていることを従業員に周知し、事業との関連を明確にしています。

また、NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラムの協力を得て、荒川の環境や生物多様性について学び、河川敷の漂着ごみを拾う清掃活動を通して、課題解決のためにひとりひとりが身近なところからできることは何かを考えるきっかけとしています。

商品のプラスチック包装の削減の取り組み

加工食品の包装には、プラスチックが使用されています。プラスチックは食品の品質を保ちおいしく食べるために必要不可欠なものです。その反面、二酸化炭素の排出や使用後には正しく処分しないと海の汚染につながる恐れがあります。

ニッスイでは、冷凍食品や練り製品などに使用するプラスチックについて、こうした環境への影響を少しでも減らす取り組みを行っています。お客様が環境に配慮した商品を選ぶよう、独自のエコマーク「みらいの海へ」を商品パッケージに表示しています。

お客様が環境に配慮した商品を選ぶように、ニッスイの製品に表示しています。

デザインに込めた想い



森・川・海の水の循環の意味を込めて、「∞」(infinity、無限)をモチーフとしました。マークの左側はエコへの取り組み、右側は豊かな海を示しています。環境への配慮が海の豊かさ結びつき、ひいては人々のいきいきした生活と希望ある未来につながっていくことを表現しています。



- トレーのプラスチック使用量を減らしました。【年間約7%削減】
- 環境に配慮して外袋のフィルムにアルミを使用していません。
- 外袋のインキの10%に植物由来原料を使用しています。

「トレーのプラスチック使用量を減らしました(従来比〇%削減)」などの具体的な内容とマークを表示

養殖のエサの工夫で、海の環境を守る

魚の養殖では、海に設けられた生け簀の中で魚が飼育されますが、その際に魚に与えるエサによって生け簀の周囲の海の環境が悪化する恐れがあります。それを防ぐため、「ドライベレット」と呼ばれる配合飼料が多く使われています。ゆっくりと海底に沈むため、魚が食べる確率が高まり、海底に沈んだエサによる汚染を減らせるメリットがあります。

しかし海面から生け簀にただエサをまくだけでは、どうしてもムダが出てしまいます。それを減らすために、ニッスイは魚が疑似餌を引っ張る習性をもとにAI/IOTの技術を活用して、魚の食欲に応じて自動的にエサを与えるシステムを開発しました。これによってエサのムダを減らすことはもちろん、エサを与える作業そのものを減らすことができました。



魚の食欲に応じてエサを与える「アクアリンガル®」給餌システム